

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

郷土教育 第3号

— 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校対象 —

平成25年4月発行

社会科・地理歴史科における地域の文化遺産や博物館・資料館を活用した郷土教育

小・中学校の社会科及び高等学校の地理歴史科においては、学習指導要領に「地域の文化遺産や博物館・資料館を活用すること」が明記されている。それは、児童生徒の知的好奇心を高め、学習への動機付けや学習の深化を図ることができ、学習のねらいを効果的に実現するとともに、歴史に対する興味・関心を高めることができるからである。

そこで本稿では、社会科、地理歴史科における地域の文化遺産（九州・山口の近代化産業遺産群）と博物館・資料館（歴史資料センター黎明館）（写真1）を活用した郷土教育について、具体的な指導例を挙げながら述べる。



写真1 歴史資料センター黎明館

1 学習指導要領における文化遺産や博物館・資料館を活用した郷土教育の位置付け

小学校学習指導要領では、第6学年の内容が、次のように示されている。

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにする（後略）

そして、指導計画の作成に当たっては、「博物館や郷土資料館等の施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れるようにすること」とされている。

中学校学習指導要領では、歴史的分野の目標が次のように示されている。

(2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。

さらに、内容の「歴史のとらえ方」について、「身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させる」とし、内容の取扱いで具体的に「博物館、郷土資料館などの施設の活用」が明示されている。

高等学校学習指導要領では、日本史Bの内容が、次のように示されている。

ア 歴史と資料

遺跡や遺物、文書など様々な歴史資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ、歴史への関心を高めるとともに、文化財保護の重要性に気付かせる。

さらに、内容の取扱いで、「地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること」と明示されている。

2 地域の文化遺産を活用した社会科、地理の歴史科における郷土教育の進め方

(1) 地域の文化遺産活用のねらいと調査の進め方

地域の文化遺産活用のねらいは、地域への関心を高め、地域の具体的な文化遺産との関わりの中で、我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせることである。そのためには、児童生徒による「調べる学習」が行われるようにする必要がある。

地域の文化遺産を調べる場合、『鹿児島県史』をはじめ、各市町村の郷土誌等を基に調べるのが基本である。

また、地域の埋蔵文化財については、鹿児島県立埋蔵文化財センターのWebページの「埋蔵文化財情報データベース」で検索することも可能である。また、鹿児島県教育委員会発行の『かごしま文化財事典』や、鹿児島県高等学校歴史部会編集の『鹿児島県の歴史散歩』などを活用して調べることもできる。

いずれにせよ、児童生徒が資料を適切に活用し、諸事象を公正に判断できるようにすることが肝要である。

(2) 地域の文化遺産を活用した学習指導例

本稿では、国指定有形文化財である鹿児島市磯の旧集成館機械工場跡と旧鹿児島紡績所技師館（写真2）の見学を取り入れた学習指導例を紹介する。



写真2 旧鹿児島紡績所技師館（異人館）

集成館は、幕末の薩摩藩主島津斉彬が興した工場群の総称で、現在、鹿児島県は「九州・山口の近代化産業遺産群」として世界文化遺産への登録を目指している。その取組の一環として世界文化遺産課が作成した『かごしまタイムトラベル～日本の近代化の歴史を訪ねる旅～』（写真3）は、写

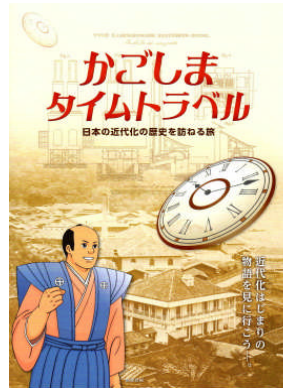




写真3 『かごしまタイムトラベル』表紙

真やイラストを多用しており、小学生にも分かりやすいように県内の近代化産業遺産について説明されている。県下の小学校5・6年生全員に配布しているので、授業でも活用したい。

ここでは、幕末薩摩藩では西洋列強の外圧に対抗するため、製鉄のための反射炉や日本初の洋式紡績工場が設立されるなど、近代化の基礎が築かれていたことを理解させたい。その際、これらが単に郷土の発展だけではなく、明治時代の「産業の発展」における八幡製鉄所や大阪紡績所の設立につながっていくことに気付かせることが重要である。

なお、展開例（表1）では、文化遺産の見学に当てる時間を1単位時間と想定しているが、学習のねらいをより達成させるため、実態に応じて時間設定の工夫を行うことが考えられる。

表1 小学校第6学年 学習指導の展開例

○ 単元名 「発展していく産業」(世界に歩み出した日本)			
○ 本時の目標 旧集成館機械工場と旧鹿児島紡績所技師館の見学を通して、集成館事業の概要を理解するとともに、近代日本が殖産興業を進めた背景を、西洋諸国の動向から捉えることができる。			
○ 本時の展開(1/5)			
過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ	5分	1 旧集成館機械工場と旧鹿児島紡績所技師館の外観を観察し、学習問題を設定する。 集成館機械工場と鹿児島紡績所技師館は、なぜ造られたのだろうか。	○ 施設内の資料等を見学する前に、外観を基に学習問題を設定させ、予想を立てさせる。 
調べる	30分	2 グループごとに施設内を見学し、いつ、誰が、なぜ造ったのかなどについて調べる。 3 学芸員から解説を聞き、自分たちが調べたことを確認する。 4 教科書に写真が掲載されている大阪紡績所や八幡製鉄所と比較させ、明治政府が富国強兵や殖産興業を進めた理由を考える。	○ 見学に当たっては、『かごしまタイムトラベル』も参考にしながら調べさせる。 ○ 集成館事業や施設の概要に加え、当時の日本を取り巻く国際情勢等について解説してもらう。 ○ 鹿児島の集成館事業は、明治政府に先駆けた近代化政策であったことに気付かせる。
まとめる	10分	5 見学を通して学んだことを基に、学習問題に対するまとめを行う。 集成館機械工場と鹿児島紡績所技師館がつくられたのは、西洋に負けない強く豊かな国をつくるためであった。	○ 単なる郷土の歴史の学習で終わらせず、文化遺産の学習を通して我が国の歴史上の主要事象や歴史の大きな流れを考察させる。 

3 博物館・資料館を活用した社会科、地理歴史科における郷土教育の進め方

(1) 博物館・資料館の活用の効果

『小学校学習指導要領解説 社会編』では、地域の博物館・資料館を活用した学習(以下、博物館学習という)を積極的に行うこととする。次のような学習効果が期待できるとしている。

- ・ 児童生徒の知的好奇心を高める。
- ・ 学習への動機付けや学習の深化を図る。
- ・ 諸感覚を通して実物や本物に触れる感動を味わう。
- ・ 学校での積極的な活用を通して、これらの施設を自ら進んで利用できるようになる。

社会科・地理歴史科においては、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させる

ことが大切である。そのためには、博物館学習を通して、諸資料を基に探究する課題解決的な学習の充実が有効である。

また、博物館学習を取り入れる際、学習過程のどこに位置付けるかが重要である。学習のねらいや内容等によっても異なるが、次のように分類できる。


課題発見型 (導入段階)	博物館学習・課題設定→調査→まとめ 博物館見学を通じた歴史的事象との出会いを基に学習課題を設定する。
課題解決型 (展開段階)	課題設定→博物館学習・調査→まとめ 課題を解決するため、博物館の資料を活用し、主体的に調査をする。
学習整理型 (整理段階)	課題設定→調査→博物館学習・まとめ 学校で学習した内容を博物館の資料を通して確認し、まとめる。

一場郁夫『れきはくをつかおう!』を参考に作成

(2) 博物館学習を取り入れた指導計画例

高等学校日本史Bにおける、歴史資料センター黎明館を活用した課題解決型学習の指導計画例(表2)を次に示す。

表2 高等学校日本史B 指導計画例

○ 単元名 「薩摩藩の特色とその背景」（中単元「歴史の論述」において本主題を設定したと想定）		
○ 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 薩摩藩の政治，経済，社会，文化等の中から一つテーマを選び，歴史資料センター黎明館の展示資料を基に探究を行い，その結果を適切に論述する。 ・ 様々な資料の特性に着目し，複数の資料の活用を図って，因果関係を考察したり解釈の多様性に気付いたりする。 ・ 課題解決型学習を通して，歴史的な見方や考え方を身に付ける。 		
○ 単元の指導計画（全5時間，そのうち太枠の2時間が博物館学習）		
時間	主な学習活動	指導上の留意点
1	1 薩摩藩の政治，経済，社会，文化等の中から特徴的なテーマの一つを設定する。 （例）「薩摩藩と琉球王国」，「薩摩焼」，「天保の財政改革」，「薩英戦争」など	○ 設定したテーマについて黎明館にはどのような資料があるか，事前に『黎明館常設展示図録』を基に調べさせておく。 
2 3 4	2 グループごとに黎明館常設展示場で必要な資料を探し出し，必要な情報を読み取る。 3 展示してある資料以外の資料については，情報ライブラリーの「黎明館情報提供システム」で検索して調べる。 4 資料を基に探究したことを整理し，自分の言葉でまとめる。	○ 解説文を丸写しするのではなく，資料からどのような事実や背景が読み取れるかを考えさせる。 ○ 一つの資料だけではなく，関連する複数の資料を比較したり，因果関係を考察したりして，探究させる。 ○ 必要に応じて，展示解説員や学芸員に質問させる。 ○ 郷土史に留まらず，世界史的視点から考察し，日本史全体の中でどんな特徴があるかという観点で論述させる。
4 5	5 グループごとにまとめた内容を全体で発表し意見交換を行う。 6 各グループの発表を基に，薩摩藩（鹿児島）はどのような特色をもった藩（地域）であり，それを可能にした要因を総合的に考察し，自分の考えを論述する。	○ 資料の解釈や内容，表現の的確さなどについて，意見交換を通じて生徒相互に評価させる。 ○ 薩摩藩について主題を設定して探究，論述する学習を通して，「世界の中の日本」，「地域のもつ歴史的特徴」を考察させ，併せて，歴史を学ぶ意義をより深く認識させる。

博物館学習においては，博物館で調べる時間だけではなく，学校での事前学習やまとめ（振り返り）の時間も非常に重要である。児童生徒が，何のために何を調べるために行くのかということをしっかり認識して臨むことが大切である。

また，適切な指導を行うためには，博物館・資料館にどのような資料が収蔵，展示されており，それがどの単元のどの項目で活用が可能かということ教師が把握しておかなければならない。そのためには，日頃から地域の博物館・資料館が実施する展覧会をはじめ，講演会や講座等にも積極的に参加し，博物館と学校，学芸員と教師との連携を深めたい。

本稿では，地域の文化遺産や博物館・資料館を活用した郷土教育の具体的な進め方について述べてきたが，これらを教材として扱うだけでなく，その役割や活用の仕方についても正しく理解させたい。さらに，それらに関わっている人々の働きやそれらが大切に保存，管理されていることの意味を気付かせることも大切である。

【参考文献】

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』平成20年 東洋館出版社
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』平成20年 日本文教出版
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』平成22年 教育出版
- 『かごしまタイムトラベル～日本の近代化の歴史を訪ねる旅～』平成24年 鹿児島県世界文化遺産課
- 一場郁夫『れきはくをつかおう！～博学連携のススメ～』平成16年 国立歴史民俗博物館

（教科教育研修課）